

## 茶道が果たす平和の役割

中村 静子

「一盃(わん)からピースフルネスを」、これは、鵬雲斎千玄室大宗匠(裏千家15代家元)が、ライフワークとして提唱され、世界中を茶道行脚する理念とされる言葉です。

大宗匠は第二次世界大戦の時、学徒出陣で海軍に入り、特攻隊に任命され過酷な体験をされた事を色々なメディアで語られています。

私も京都で茶道の修行中、実際に何度かお話しを伺わせて頂きました。2021年8月14日の京都新聞の戦争体験の話を抜粋してみます。

「45年3月上官から「残念だが特別攻撃隊の編成が命じられた。今から1枚の紙を渡す。名前を書いて提出せよ」と告げた紙には熱望、希望、否の選択肢が記されていた。

名前を書く以上拒否できない、と熱望に二重丸を付けた。否を選んだ搭乗員たちもいたかもしれないが、結果的には全員が特攻隊に編成された」徳島白菊特攻隊(大宗匠所属)は5月24日から6月25日、鹿児島の前線基地から沖縄の近海に5回出撃し、17歳から25歳までの56人が命を落とした。死地に赴く仲間から「靖国で待っとるぞ」と言われ、「おう、いくよ」といったが、その後、松山飛行隊に転属になり終戦を迎える、とあります。

戦後、大宗匠はご自分の使命を、茶道を通して世界平和を提唱する事とお考えになられました。

そして世界の様々な国の方に、茶道を体験してもらい、その良さを示すことにより、相互理解を深め、平和な関係を築く活動をされることに尽力されたのです。今まで訪問された国は、70か国余りで延べ300回以上に及ぶとの事です。

私も1981年に、タイのバンコク支部の発会式と、日泰文化交流茶会に参加させて頂く機会に恵まれました。

シリキッド王女様もお出ましになるとの事で、大変緊張しましたが、王女様は茶道のお点前の体験をされて、とても楽しんでおられるご様子でした。

又、ご列席の方々も、茶の湯の作法を目の当たりにして、興味深げでした。当日の茶会の菓子は日本から持参しましたが、タイの国旗の配色で、現地の方々が大変喜んでくださいました。この茶会で、民間外交とでも言うべき文化交流の在り方は大変重要なものと認識しました。

裏千家の令和3年次のホームページを閲覧しますと、下記のように記されています。

「海外出張所、協会が37ヶ国、112地域にあります。裏千家寄贈の茶室も、ハワイ、ニューヨーク、ワシントンDC、シアトル、ロサンゼルス、バンクーバー、パリ、ロンドン、ミュンヘン、ハンブルグ、ヘルシンキ、メキシコ・シテイー、リマ、サンパウロ、北京、天津、大連、広州、杭州、ソウル、釜山、マニラ及びアブダビなど多くの主要都市にあります。

茶道の学術的研究も世界各国で進められており、学問として米国ハワイ大学を始め全米各地の大学にて、またブラジル、中国、台湾、韓国、ロシア、ポーランド等の各大学で正課に取り入れられており、著名な教授や学者によるアカデミックな研究が行われています。」

グローバルな時代に生きる若者達が自国の文化を正しく学び、それを他の国々の人々にも示せる知識を持つ事は大変重要です。個人個人の相互理解が、友情を生み人間同士の交流を深めるのではないのでしょうか。

茶道をただ単に伝統芸術という範疇に留めず、「一盃からピースフルネスを」という気持ちをもって、どなたにも接していきたいものです。そしてそれが世界の平和の一役を担えればと思うのです。

現代は戦争の悲惨さを認識し、後世に伝える為、生徒達は平和学習として、広島、長崎に修学旅行に行きます。

今後、若い人々が、無駄な戦争で亡くなる事の無いよう、民間レベルの交流で「和をもって尊しとなす」と切に願います。

